

平成 30 年度学校評価

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	・自立と社会参加をめざし、キャリア教育の視点から小学部から高等部までの教育内容を見直し、系統性のある教育課程を再編成し、授業改善に取り組む。	①新学習指導要領についての理解を深め、そのコンセプトを活かした授業改善を行う。 ②キャリア教育の視点から、各学部や学校全体での学習内容の系統性を検討整理する。	①ーア 研修会や研究会を通し、新学習指導要領について理解を深め授業実践に活かす。 ①ーイ 教材教具や指導案の共有を行い、学習環境の構造化等、環境の整備を行う。 ②ーア 学部内での系統性や学部間の繋がりを整理し、学校全体の学習内容系列表の作成に取組む。 ②ーイ パラスポーツや食育等に主体的に取り組めるようにするなど、生涯の健康保持に繋がる活動を推進する。	①ーア 新学習指導要領のコンセプトを理解しそれを活かした授業改善を図れたか。 ①ーイ 教材教具を個々や学年に留めず、共有できるような整備を行い、児童・生徒が学習に主体的にとりくめるよう環境整備ができたか。 ②ーア 系列表作成等に取り組む(研究研修班と学部との連動)、学部内や学部間を繋げる整理を進められたか。 ②ーイ 支援方法等を工夫し、児童・生徒が主体的にパラスポーツや食育等の活動を継続的に行えたか。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	・児童・生徒一人ひとりの人権を尊重し、個性に応じた支援・指導を組織的に行う。	・児童・生徒一人ひとりの「いのち」と人権を尊重し、教育計画にも合理的配慮のもと、それをより活かせるようにする。	ア 児童・生徒への「さん付け呼称」の定着のみならず、人権意識や障害特性への理解を深め、人権を尊重した関わりを推進する。 イ 一人ひとりへの合理的配慮のもと、個別教育計画の様式の見直しなど、日常的に活用できる教育計画を作成する。 ウ いじめ問題への対応や安全指導も含め、「いのち」の尊重につながる実践を引き続き行う。	ア「さん付け呼称」だけでなく、児童・生徒への関わりや児童・生徒相互の関わりが、互いを尊重したものになるよう、支援方法やはたらきかけ等を工夫、実践することができたか。 イ 個別教育計画の様式の見直しを進め、合理的配慮を盛り込んだ活用できる教育計画づくりを進められたか。 ウ いじめ問題への適切な状況把握(日常生活やアンケート、面談等での早期の把握)をし、組織的・機動的な対応ができたか。また、「いのち」の尊重に繋がる実践を行うことができたか
3	進路指導・支援	・将来、社会で豊かに生きることをめざし、一人ひとりのニーズに応じた進路指導・支援を行う。	①将来の生活を見通した支援ツール等の充実や指導の工夫を図る。 ②児童・生徒一人ひとりに寄り添う進路指導・支援のため、保護者等への情報提供の充実、進路指導・支援の協働を図る。	① 支援ツールを見直し、児童生徒の主体的な活動を引き出し、将来的にも効果のあるものにする。 ② 進路説明会や進路見学会の内容や持ち方、広報などを工夫し、多くの保護者や関係者が参加できるようにする。	① 児童生徒の主体的な活動を引き出せるような支援ツールの開発や工夫、見直しができたか。そして将来の生活の向上へもつながるものであったか。 ② 進路説明会や進路見学会の参加者を増やすための工夫や、保護者や関係者との情報共有を進め、本人・保護者に寄り添った進路指導を行えたか。
4	地域等との協働	・障害のある子どもがいきいきと暮らすことができるよう、家庭・地域・関係機関との連携を進める。	・「ともに生きる社会」の実現に向け、家庭・地域・関係機関との連携・協働を引き続き進める。	ア 地域対象の見学会等を引き続き行い、多くの方々が参加できるよう開催方法や広報を工夫する。 イ 地域と協働した教育活動の実践を推進する。 ウ 交流及び共同学習が相互に理解を深め学べる場となるため、活動内容や支援の工夫を図る。(パラスポーツ、1の②ーイと共に) エ 校内人材バンクを活用し、地域の学校への支援体制の充実や担当職員への支援を行う。	ア 多くの地域の方々が関心を持って参加できる見学会等の機会を工夫し開催することができたか。 イ 引き続き地域との関わりを深め、地域と協働した教育活動を行えたか。 ウ 交流及び共同学習を相互にとって理解や学びが高まる場として推進できたか。(アンケート等で評価検証を行う。) エ 地域の学校への支援体制の充実や担当職員のスキルアップに繋がる支援を行い、センター的機能の充実を図れたか。
5	学校管理 学校運営	・すべての職員が、教育環境の変化や課題に機動的に対応できる学校組織作りを進める。	①新たな課題に対し、迅速で柔軟に対応できる学校組織とシステムを構築する。 ②各種要綱、手引き等の整備を進め、定期的な研修を通して理解を深める。	①ーア 全職員が支援ツールとしてのICT機器研修に参加し活用を図る。 ①ーイ 高等部生徒のスクールバス乗車の検証を行い、今後の安定的な運用のため条件整備を進める。 ①ーウ 実際に即した防災・安全教育と体制作りを行い、宿泊訓練に向けた計画を作成する。 ①ーエ 気にかかること等について学校全体の課題と捉え、学部・分掌間の連携により機動的解決を図る。 ②ーア 事故防止会議や研修の工夫、マニュアルの見直しにより、個人情報の適切な扱いや不祥事の未然防止に取り組む。 ②ーイ 教材研究や子どもたちに向き合う時間の確保のため、業務アシスタントの活用、組織・会議の見直しにより働き方改革を推進する。	①ーア 全ての職員が研修に参加し、実践の場で活用を図れたか。 ①ーイ 高等部生徒のスクールバス乗車について検証を行い、次年度へ向け安定的な運用のための条件整備ができたか。 ①ーウ 災害時を想定し、実際に即した体制づくりや宿泊訓練の計画立案に取り組むことができたか。 ①ーエ 日常的な諸課題について、各学部・分掌で連携をとり、機動的な解決を図れたか。 ②ーア 研修の工夫、マニュアルの見直しを通し、個人情報の適切な扱いや不祥事の未然防止につなげられたか。 ②ーイ 業務アシスタントの活用、組織・会議の見直しを進め、子どもたちと向き合うための時間の確保や効率的な組織や会議の構築ができたか。